学びのツールとして 全校にタブレットPCが導入されました

２５年度にモデル校として小学校３校（第三峡田・尾久・第二日暮里小学校）中学校１校（諏訪台中学校）に導入しました。
モデル校での成果を充分に活かすと共に、明らかになった課題を一つ一つ解決した上で、２６年9月、全校にタブレットPCを導入し、運用を開始しました。

1.タブレットＰＣを活用した授業とは？

「教科書とノート」が無くなるわけではありません
これまでの授業に「わかりやすさ」をプラスするツール（道具）として使用します

授業においては、これまでの授業と同様に「読み・書き・計算」を学習活動の基本として、実験や実習といった実物に触れる「体験学習」を重視すると共に、荒川区の学校教育の特色である「学校図書館」もこれまで以上に授業で活用していきます。

導入初期段階におけるタブレットPCの活用については、授業中のすべての場面で活用するのではなく、これまでの教科書やノート、黒板やチョーク同様に、分かりやすく教える「授業のツール」として、その特性を活かし効果的な場面で部分的な活用を目指します。タブレットPCを授業の中で効果的に活用し、基礎的基本的な学力の定着を図ることを目指していきます。

2.情報活用能力（リテラシー）の育成

自分のツール（道具）として主体的に適切に使える能力を

「情報モラル」を確実に身に着け、児童・生徒が「学習のツール」としてタブレットＰＣを適切に活用出来るようにする学習活動を充実させます。これにより「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」といった力をバランスよく育成していきます。

3.グローバル社会で活躍出来る能力　「21世紀型スキル」の育成

「30年後を見据え、現在の子どもたちに身に着けてほしい力は何ですか？」

「社会はどんな力を子どもたちにつけてほしいと思っているでしょうか？」「これからの社会で必要な力」を考えると、テストなどの紙面に現れる「一時的」な能力だけでなく、「長持ち」して「使える」能力が必要です。

このような能力を総称して「21世紀型スキル」と呼び、タブレットPC等の情報端末を効果的に活用した「新しい学び」が世界的に広がっています。

区では、全ての子どもたちに「21世紀型スキル」をいち早く身に着けさせたいと考え、タブレットPCを活用した「新しい学び」に取り組んでいきます。

「21世紀型スキル」とは？

これからの社会が求める能力の総称です。さまざまな能力がありますが、一般的に良く知られているのは、「コミュニケーション能力、コラボレーション能力、イノベーション能力」などです。このような能力を育成するために授業でタブレットPCを活用して、次のような気付きを広げていきます。

○コミュニケーション能力
私には、伝えたいことがある（だから、もっと良くわかって、うまく伝えたり、人の意見も聞きたい）

○コラボレーション能力
話し合ってみると、自分の考えが良くなる（だから、もっといろいろなことについて、意見の違う人とも真剣に話し合いたい）

○イノベーション能力
意見の違いを統合して、みんなのアイディアの質を高めることが出来る

このような「21世紀型スキル」が、これからOECD（経済協力開発機構）のPISA調査「生徒の学習到達度調査」でも評価の対象になっていきます。

学校図書館と タブレットPCを活用した学習

学校図書館でのタブレットPCの活用が広がっています。

図書で調べたことをインターネットで広げ、インターネットで調べたことを図書で確認するなど、アナログとデジタルを融合した授業が広がっています。アナログとデジタルの双方の良さを見出すため、双方の利点を探る授業なども始まっています。

このような取り組みから、これまでの「調べる→まとめる→発表する」といった一連の学びから「情報収集→情報の統合（練り上げ）→創り出す」学びへと進化が始まっています。

これからは、アナログやデジタルを問わずさまざまな情報を幅広いメディアから引き出し、多様な考えを持つ他者と協議し、自分なりに統合して新しいものを創出する「主体的な学び」が求められています。